



## 柳 たかを

私的なことなのですが、2016年2月末で2015年2月末から続いていた勤務先(宝塚大学)との不当解雇の訴訟に決着がつき、ひとまず様々な責任から解放されました。

職は失いましたが、結果は実質勝利和解なのでホッと納得しています。

11年間のマンガ担当教員としての生活は予想以上に時間とエネルギーが必要でしたが、つきあう相手が若い未来に夢をもつ若者達であったおかげで、会社勤めのようなストレスに悩むことはなく、だから続けられたのだと思います。

3人一緒に闘ったうちの若い先生は、4月から新しい職場で教員支援員としてリスタートされることが決まっており、もう一人の先生は語学の非常勤講師としてすでに複数の大学で教壇に立たれています。

私もマンガ(カートゥーン)の指導で、また若者と共に学びたいという希望もあるのですが、それとは別に約20年以上昔から夢みていたプランがあります。

それはDIYでアトリエとして使うことを目的にした10坪ほどのログハウスを建てたいというものです。

「なら建てたらいいやん」なのですが、設計・建築確認・基礎工事・ログ材の加工・組立て・内装・電気工事も全部自分でやりたい、全く建築の知識はないのでゼロから人に尋ね勉強しながらですので、はたし

ていつ出来るのか、そもそも完成するのかいっぱい不安もありますが始めようと考えています。

さいわい建築予定地である妻の実家は広い敷地で建てる土地の選択に悩む必要はありません。

60代後半、腰痛の持病はありますが、夢みて前進する情熱はまだあると思っています。

ど素人が始めることなので、心がまえとしては、よく調べて準備計画をすること、焦らない、無理しない、怪我しない、しんどい時ほど楽しむ気持ちを忘れないようにとめて頑張ろうと思っています。次の号の執筆者短信でちょっぴりでもDIYのご報告を書けたらと思います…

## 齋藤 清二

京都に来て、ほぼ1年が経過し、ようやく交通手段や地理感覚なども頭に入るようになり、それを利用して、色々なところを見て廻ったりしてエンジョイしている。1月から2月にかけては、専ら修論指導に勢力を投入してきたが、色々私も学ぶところが多く、学生さんから力をもらったように感じている。私が関わった学生さん達の修論はほとんどが、質的研究法を用いたものだったこともあり、一緒に論文を仕上げていくプロセスに伴走することで、しばらくなくなっていた思考を再度鍛えられたように感じた。興味はあるが身近過ぎるようなテーマについて、出来る限りの精緻な分析と考察を加えつつ、言語化し発信できる何かを創り上げていくような作業を、学生さんに負けないように、私自身も続けていきたいという意欲をもらったことに感謝したいと思っている。

## 石田 佳子

今回は、身辺に変化があつて忙しかったので、連載をお休みさせていただきました。変化というのは、C型肝炎が治った(らしい)こと、はじめて自宅を購入したこと、引っ越しに伴い大量の資料を捨てたことです。

C型肝炎の治療については、昨秋からハーボニーという新薬を飲み始め、8週間目の検査で「ウイルス検出せず」という結果を得ました。この治療には副作用がほ

とどなく、従来のインターフェロンによる治療と比べると、夢のように楽でした。ウイルスが消えても長年積み重ねた肝臓への影響があるため肝癌になる可能性はゼロにならない(普通の人よりは高い)のですが、以前よりも身体が軽くなり、なんとも言えない解放感を噛みしめています。

自宅の購入は、日本国内で行いました。まだ当分、私たち夫婦が元気に動き回れる間はマレーシアを本拠地にする予定ですが、高齢の義父母が日本に住んでいること、今後も肝臓の経過観察が必要なことから、今後もたびたび帰国する必要があるでしょう。また、海外に住んでいると、政治・経済、テロやヘイズなどで状況が急変することがあるため、やはり「いざという時には日本に帰れる(帰る場所がある)」のは、非常に心強くと感じます。そのため、帰国時に利用できるホテル替わり/海外へ出るためのベースキャンプとして、関西国際空港の近くに中古のマンションを購入しました。

そしてその引越しを機会に、仕事(心理・建築)関係の資料を大量に捨てました。仕事を辞めてすぐ引っ越した時には、「また使うかもしれない」と考えて捨てられなかった文献や図面などです。あれから約3年経ち、自分の中で残すべき物がはっきりしてきました。心を込めてお会いした方々との記録や何度も読み直して影響を受けた文献などは、いまだに捨てられませんが、専門的な学術的議論や詳細な検査マニュアルなどは、「もう必要ない」と考えて処分しました。



そのような訳で、今回の日本での生活は、当初予定していた3か月から半年に延びましたが、これが出る頃には再びクアラ Lumpur へ戻っています。ずっと

がかりだった問題がひとまず解決されて、心身ともに身軽になり、今後は本腰を入れてマレーシアでの生活を味わいたいと思っています。

## しすてむ♪きよたけ

前号で一区切りとなった「猫」の小池は、僕の後輩です。一区切りの話は、今回から連載助走を始めた奥野（小池の同期）から聞いていました。社会人としてステップアップしている小池に、喜ぶ思いとここでの連載を休憩する切なさがありました。

でも、奥野と「こういう転機って、うまくは言えないけど…大事な意味がありそうだ」「俺らにとっても何かもたらしている」的な話をしました。

何かを止める時の決断って、勇気がいることだと思います。したいことや大事にしていること、楽しんでることだったらなおのことかな。

今更だけど、小池！応援してまっせ〜！また、ここで会える日を。そして、奥野〜君とは頻繁に話しまくっているけどここで再会できること、嬉しいです。修論終わってから、僕ばかりが話していると思うし、何か変わるんじゃないかと思って楽しみにしてます。せっかくだから、小池も誘ってみようよ〜。ということで、そうだ！小池に聞いてみよう！？

## 小林茂

対人援助学ガジンの連載を始めてから1年が過ぎました。もともとテーマを決められないまま見切り発進したわけですが、連載というものを始めると単発で、特集などテーマが決まっているものとは違った心構えを使うものだと知りました。

正直、毎回話題をまとめるのも、なかなか難しいものだと感じつつ、この連載という機会を上手に活用したいなあ、と思います。

そして短信については、遊び心をもって楽しい近況報告にしていきたいと考えています。気持ちも新たに取り組みたいと思います。よろしくお願いします。

## 水野スウ

出前紅茶は、私がピンで（一人で）語る場合がほとんどだけど、先日珍しく、親子

で話して、のご注文をいただき、「おやこらぼ・けんぽうぶっくトーク」と題して、娘と私、漫談スタイルで語ってきました。「あなたとわたしの・けんぽう BOOK」の文章を書いたのは私ですが、編集とデザインを担当したのは娘。この親子コラボがなければこういう本にはならなかったと思うので、そのあたりの話を。

SNSなどでお知らせしてない短期間のよびかけ企画にもかかわらず、ぎゅうぎゅうつめの40人越え。いらしたみなさんはすでに本を読んでも方たちなので、中味は文字通りのぶっくトーク。

去年5月、安保法案が通るまでに憲法の本をつくりたいから手伝って、と私が言いたした時、「え、なんで？憲法の本なら専門家の書いたのが今いっぱい出てるし、ましてそんな短い間に、しろとが憲法の本を書くなんてとうてい無理だよ」と難色を示した娘。

そう言われてもひかない私。うん、もちろん専門家じゃない私だけど、それでもここ10年余りずっと憲法を語ってきて、みんなにとって憲法がいかに遠いところにあるかや、13条と12条のこと、こんなふう語ってる人はほかにいない、って確信したから、こういう私が憲法の本づくりにきつと意味があると思う、と。

それからひと月半おくれで、娘の、本づくりモチベーションが自分ごとになりました。自分がよく行く親しい場所や、一番みぢかな存在のパートナーと、政治の話をするのが、どうしてこうもむずかしいのか。安保国会を見てもわけがわからず、もやもや、ざわざわしたきもちを抱えてるママたちにこそ、読んだら少し頭ん中がすっきりする、夫と話す時の材料にもなる、そんな本を、自分も勉強しながら一緒につくりたい。そう思えた日から、娘は俄然、とても強力な、本づくり協力者になりました。



頭のつくりの丸い私と、四角い娘。私が感情的になって怒りながら書いた文章は

バッサバッサときられ、私が少しあいまいな記憶で書いた部分は、娘がしっかり調べて裏付けをとり、いつ誰が何を発言したか、の注釈を入れ。そういうコラボ作業の積み重ねで、けんぽうBOOKはできあがっていったのでした。

この本ができた後、娘はいくつもの憲法カフェに参加しました。そこで感じるのはいわゆる、せいじの話って、なぜこうもひとと語りにくいんだろ、ってことでした。

娘も私も、この日何より伝えたかったのは、相手を責めるような、攻撃的な口調やことばでは、本当に伝えたいことは、それがどんなに正しいことでも伝わらない、というこの一点。政治の話をする時も、「わたし」を主語に、誠実に、相手に伝えていく努力。とりわけ、選挙に関する話はその「段差」が大きいけど、あ、そこ、段差にどうぞお気をつけてください、みたいなきもちで語っていくこと、いつそう大事だね、と。

語りにくさの違和感をこそ否定しないで、答えが出ないことでも一緒に考えていきたい、語りあえる場をつくりたい。そう思う娘のつくった言葉が、「すきま12条」。覚悟きめた人たちがする、立派で大きな、「不断の努力」の12条も大事だけど、そんな12条のすきまをうめるような、ささやかな12条を、自分はしていこう、そんなこと語れる場を自分ではじめよう、って、娘は今思っています。

さてさて、平和を創っていくのに必要な、いくつかの「しよん」って、何でしょう？と、私からみなさんに質問。これが答えだ！というのではないと思うけど、私の考えたのは、communication+imagination+action。ほかに、negociation,education,vision,motivation,mission,attention,..などなど、きつといっぱいありそうなので、これからもみんな考えていこうね。あ、「しよん」はつかないけど、もちろん、そこに「愛」は、必須です！と。emotionも、愛のひとつですね。

「♪13条のうた」の親子デュエットのあとは、いらしたみなさんに、今日持ち帰りたい言葉か、自分のできるすきま12条を書いていただいて、それをもとにグループトーク。最後に、各グループのお一人から、みな

さんの言葉を発表してもらってシェアリングタイムを経て、終了。

2人でうちあわせは一応していったけど、ところどころ言うこと忘れてたり、ずっこけたり。その分、みんなにいっぱい笑ってもらい、考えてもらいの、ノンストップ2時間半。私たち自身、終わるなり、おもしろかった～楽しかった～！と思わず声にでて。大爆笑と、なぜか涙もいっぱい、親子漫談トークでした。

## 高垣愉佳

やっと修士論文を提出しました。これから口頭試問、その後合否発表と続くので、結果がどうなるのかは現時点では分かりません。今はやりきった爽快感とやり切れたのは周りの方々のおかげだという感謝の気持ちでいっぱいです。結果を思い悩んでも仕方が無いので、今は今出来る事をやっていこうと思います。手始めに、対人援助マガジンの原稿を期日内に提出する事から(笑)。

## 浦田雅夫

実弟のような存在であった甥っ子が若くしてガンで亡くなりました。でも久しぶりにゆっくり話せたね。ありがとう。がんばったね。もう安心してゆっくりしてください。

## 早樫一男

「日本のジェノグラム」として連載していますが、中央法規出版より「対人援助職のためのジェノグラム入門」として発刊することになりました。ジェノグラムに関する内容をまとめたいという思いがやっと一冊の書物になります。発刊は4月20日。気軽に読めるものですので、ぜひ、ご購入ください。定価は1600円です。

## 中島弘美

### 対人援助学会研究会

#### 第17回(通算41回)の感想

研究会の準備等を、千葉さんや山口さんとともに担当させていただいています中島弘美です。2015年12月25日は牧師の遠藤勇司さん【来談者は素敵な先生:ナラティブ・セラピーのワークを通して】でした。

当日、「クリスマスのこの時期は特にお

忙しいのでは？」とたずねると「さっきまで、釜ヶ崎のおんちゃんたちへのクリスマスプレゼントとして、お弁当をつくったあとここに来ました」と、微笑まれました。教会での活動だけでなく、路上生活者などへの支援もされています。

まずはワークをやっていただきましょうと、ペアになって「二つの自己紹介」が、スタートです。参加者約35名の表情がみるみる豊かになり、会話がはずみます。感想を発表したあと、ナラティブについての説明がありました。続いては「あなたの考える、超！完璧な対人援助職、超！完璧な来談者(被援助者)とは？」のワークです。個人作業のあと4人ずつになってディスカッションし、発表です。グループでの話し合いや発表の時間がたっぷりあるので、しっかりとシェアすることができます。ここで、あらためて対人援助への姿勢についての解説です。もしも、あなたが野球少年だとします。イチローにインタビューをする機会があるとすれば、たずねたいと思うことを一生懸命に質問をして、その返事を一生懸命に聴きますよね、それと同じで、「被援助者に学ぶという姿勢が援助者にとって大切だ」ということを強調されました。まったくその通りだなあとワークを通して体験することができました。いつも、ゲストスピーカーの話からの学びが多いのですが、参加者とともに作り上げていく研究会であったと思いました。

アメリカやドイツの留学話も聞きたいなと早くも次の機会があることを願っています。

## 木村晃子

この1月、石川県で継続開催されている、「いしかわ家族面接を学ぶ会」に参加させていただきました。マガジンの執筆者である、水野スウさんとは、2回目の出会いでしたが、今回は、ジェノグラム面接を通して、確かな出会いになりました。出会いというのは、実に不思議だと感じます。世の中には、こんなにたくさんの方がいるのに、「今、出会ったこと」が奇跡のような、必然のような・・・とにかく、元気をいただいたのでした。

学ぶ会が終了してからは、金沢の駅でお土産巡り・・・すると、今度はマガジン執筆者

のきよたけさんと出会った。「マガジン」でつながるご縁。昔で言うと、「同人誌」みたいなイメージだけれど、同人でもないような、あるような・・・改めて、「マガジン」の面白さを感じたものです。そして、きっと、この後も、まだお会いしていないマガジン執筆者との出会いが待っていると思います。ワクワクな楽しみです。

## 藤信子

これまでは大体毎冬に1回風邪をひいていたのに、今年の冬は12月のはじめにひいて、今週の初めからまた鼻かぜになった。いろんな仕事がそろそろ片付いたと気が緩むと風邪をひくようだ。ただ2回目となると、年齢のせいで無理がきかなくなっているのかもしれない。ところで自分の年齢を自覚することは、どんな時だろう。話をしている「この間のこと」と言い、何年くらいのことかと聞かれ、考えてみると20-30年前のことだったということがあり、質問してきた人との年齢を考え、その人にとって「この間・・・」は何年くらい前だろうか、あるいは年単位ではないのだろうか考える時である。そんな時以外も、年齢のことを考えて、もう少し体を大事にしようと思っている。



## 中村周平

怪我をして以来、母校の試合やプロ野球の観戦などは行く機会がありませんが、「スポーツをする」という点ではまったくと言っていいほど関わることはありませんでした。自分にとっては「ラグビー」が一番で、それ以外に「もう一度チャレンジしよう」という気持ちにさせてくれるスポーツ(もちろん、運動機能との関係で物理的に不可能な種目もありました)と出会うこともありませんでした。

そんな中、ある団体の新年会で糸賀享弥という方と出会いました。それから約一年、気が付けば「Wheelchair Football」とい

うスポーツと一緒に盛り上げていくことに…。久しぶりにスポーツに打ち込む日々を過ごしています。その経緯についてはマガジンでまた触れさせていただこうと思います。

<http://www.yomiuri.co.jp/osaka/news/20160221-OYO1T50009.html>

## 浅田英輔

新しい部署にきて1年が経つ。この1年、「県庁にきたの初めてなんです」と言ってきたが、毎回驚かれるし、自分でもなんとなくかなったのかなと感じている。電腦に関することを書いているが、まだまだ普通の仕事の中で、考える必要がないことで自動化できることがたくさんあるように思う。政策を考えるだとか、事業を進めていくということも大きな仕事であるが、書類を作ったり数字を並べたりといった仕事が非常に多いことに驚いた。考えるべきところに時間をかけて、それ以外のところはほとんど自動化していきたいと思う。もっとパソコンをいじる時間を増やさないかね！！

## 中村正

院生の卒業時期である。毎年ユニークな修士論文ができあがり、2年間にわたる成果がでてくる。今年も多産であった。衛生的な理由でなくマスクをつける人の研究、訪問精神科看護師のエスノグラフィー、自宅が交番という日本に独自の駐在所の研究、女性の精神障害者ばかりの就労支援事業所の組織分析、在日韓国人と日本人の出会う場所で起こっていることの研究、視覚障害者とガイドヘルプをする人の身体接触の微細な奇妙さについての調査、妊婦体験のインタビュー調査、母娘関係のオタク的趣味と距離化についての研究、中国の一人っ子政策での子育ての諸相の研究と続く。在日朝鮮・韓国人も入所する高齢者介護施設で調査をしている韓国からの留学生の研究は継続していくこととなった。学部からのストレート院生、留学生、対人援助の現職社会人が入り乱れた演習だった。実に多様な対人援助学の諸相である。教員が教えられることも多い。指導をしていて楽しい。リサーチすることと将来の職業選択はかならず相関していき、こうした視野で研究課題が見据えられ

るということは、目先の技術や狭い研究課題ではないその人の大きさを感じる。専門的力量と言うよりも教養の大切さをいつも思う。そしてつくづく思うことは問題意識の広がりや課題の深まりに応じて行く過程が大切なことだ。そこでは、①学術的であるということは偏狭さも意味するので中途半端な先行研究は読まない方がよいこと、②どんな方法を採用するのかは研究対象と問題意識によるべきこと(指導教員があれこれいってもやりたいことをやること)、③院生は偉いという頑なに見える変なプライドを捨てること、④誰からも認められようとする優等生的な態度は捨てること、⑤オフィスアワーでの対話を楽しむゆとりをもつこと、⑥教員の批判的コメントを全否定されたようにとらえないことである。

これらののりこえと共に研究成果は訪れる。もちろん院生ばかりに課題があるのではなく、大学という制度自身も課題が多い。教員たちも変化を求められている。そこで次の計画を考えている。大胆な対人援助職者向けの大学院リサーチプログラムである。教員とシステムが出かけていくという発想だ。大学に来てもらうという形態の学びは、少なくともリサーチをしたいという社会人には間尺に合わないと思うようになった。現場にいく動く大学院である。対人援助の知は現場にこそある。いずれ構想を提案できると思う。ご期待あれ。

## 牛若孝治

昨年の8月、京都市北区千本北大路の視覚障害者施設のライトハウスで、10数年ぶりに視覚に障害のある友人Mと再会した。恥ずかしいことに、私の周囲には、視覚に障害のある友人はほとんどいない、というより、これまで私が積極的に視覚障害のある人たちと関わろうとしなかったので、友人がいないのは当然である。だがMは、10数年前に、私と喫茶店で会ったことを覚えていてくれた。どうやら私がMの相談に乗ったらしく、そのときの私の対応がよかったようで、いつか私に会いたい、と書いてくれていたようだ。私たちはしばらくの間、10数年間の空白を埋めるようにして、あれこれと思い出を語り合った。

その後私たちは、ライトハウスで定期的

に食事をしたり、電話で話し合ったりしている。月に2度の割合で、Mは私にいろいろと差し入れもしてくれる。「今日は寒いから風を引かないように」などと、Mは私に何かと世話を焼くことも多くなった。もともと世話焼きやおせっかいが大の苦手な私は、その度に「はい、はい」と言って、なんとかその場を治めようとしている。

だが、よく考えてみると、今の時代、私のように独り暮らしをしていると、Mのような人がいてくれるのは心強い。今、「無縁社会」や「無縁死」に関する本を読んでいるのだが、単身世帯が増えてきている昨今、この私だっていつでもどこでも「無縁社会」に陥りやすい状況を意識させられているこのごろ。

## 袴田洋子

かくかくしかじかで、自分の独立型事務所を作ることになりました。またピンに戻ります。今、事務所用賃貸物件を借りるところです。法人も作ります。雇われている組織で、理念そっちのけになってしまうのは、百歩譲って仕方ないとするのが可能かもですが、自分が経営者の立場では理念そっちのけ、って、自分には無理でして。組織理念って、やっぱり大事だと思うんです。私は、私らしく実践します。はい、すっきりしました。ということにしておきましょう。

## 団遊

長年の課題であった自分の英語力の無さ。これに改善に兆しが見えています。ことの発端は、新しく、昨年9月から参加し始めた「ふれいご」というワークショップです。このワークショップは、英語でお芝居するワークショップなのですが、肌に合いました。これまで、ベルなんとでくじけたり、お金をGABAと取られたり、英語への意気込みは毎度散々な結果に終わり続けていましたが、「ふれいご」は違いました。

毎週水曜日、集まった12人で英語劇「12人の怒れる男」を稽古します。もちろん発音のレッスンや英語でのショートスピーチなどもありますが、メインはあくまで英語劇の練習です。本番の舞台に備え、必死に台本を覚えたいといけません。また、

演出家の指導が入りますから、控えめな口調でぼそぼそしゃべっては怒られます。彼の演出プランに沿った「演技」を「英語」でしないとイケないのです。

台本には日常で良く使う英語がふんだんに散りばめられています。結果的に「使える英語」をフレーズごと覚えていくことになります。また、自分のセリフだけでなく、きっかけをつかむために他人のセリフも頭に入れなければなりません。稽古の目的がはっきりしていますから、無目的に、興味があるのかわからないのかわからない先生と45分間しゃべらないとイケない、という苦痛はありません。人生でプロの演出家の指導を受けて演技を学ぶ経験も始めてですから、とにかく面白いのです。

9月からはじまった稽古は3月で終了を迎え、月末には本番が待っています。あまりのハマりように、これを止めるわけには行かないと思い、4月からのコースも早速継続受講することにしました。

## 乾明紀

歯の痛みが無くなり食べたいものが食べられるようになったのですが、今度は腰痛と乾燥肌に悩まされることになりました。腰痛は、デスクワークと子育てが原因で、乾燥肌は床暖房の効いた量の上で仕事をすることが原因のようです。お仕事があり、かわいい子供がいて、床暖房のあるお家に住んでいるというのは、とても幸せなことなんですけどね。ストレッチや保湿などのメンテナンスで身体を労わることも大切ですね。

## 大石仁美

ワンちゃんを飼いはじめて9か月。ワンは満一歳になりました。何をしても可愛い！と思う親ばかりですが、この間、ワンちゃん育ては失敗の連続でした。本当に人間の子育てとよく似ていて、改めて教えられることばかり。

教本通りにはいかないのです。本によると、ワンが甘えて鳴いても、無視するように。我儘が通るということを学習させてはイケない。と書いてあります。ワンと人間の関係は上下関係ですから、常に人間が上でないと、制御出来ないことになっては大変です。しかし、鳴くにはそれなりの

理由があるということも分かりました。

6ヶ月の時、真夜中に大声で鳴き続けるので、どうしたものか、しばらく無視して見ましたが、近所迷惑になるので、根負けして見に行くと、すごい下痢で、体中ウンチまみれ、かわいそうにおなかが痛かったのでしょう。シャワーで洗った後、朝まで付き添ってやると落ち着きました。

10カ月のときは、夕食を食べた後なのに鳴き始め、無視して放っておくといつまでも鳴きつづけ、2時間後に根負け。タオルを使って短時間引っぱり遊びに付き合うと、なんとか納得して、入眠してくれました。ところが今度は、毎朝のように4時頃から鳴き始め、ほとんど弱っていましたが、もしかしたら、餌が足りないのでは？とトレーナーさんに言われ、規定の量に野菜や肉などのトッピングもしているのに……？と半信半疑でおもいきつて2~3割近く増やしてみると翌日からピタッと鳴きやみました。人間でいうと、思春期の成長著しい時期だったのです。そういえば我が家の息子たちも、中学生の時はご飯4杯ぐらい食べたときがありました。

ワンも激しい運動をしていて、おなかが空いていたのでした。本当にかわいそうなおことをしました。おかわりちょうだい！と言っていたのですね。犬語が分からないからと無視せず、犬の気持ちになってみることの大切さを学びました。



振り返ってみると、いたずらするときは、人の顔を見て、わざと怒られるようなことをして逃げていきます。「僕の方をみてよ。もっと遊んでよ。」と言っているのですね。叱ると、つまらなそうな顔をしますが、一向にいたずらは止まりません。ますますエスカレートします。そのうちふと反対の対応をしたらどうだろうと思いつきました。

「良い子だね。グッド！持ってきてくれたのね。グッド、グッド。」というと、銜えていたものを口から離すようになりました。「叱るより褒めろ」です。

ワンを叱るときは間髪いれず低い声で。くどくと言わない。褒めるときは、弾んだ声で大きめに。スキンシップを忘れずに。これ人間も一緒ですね。

一歳近くになって、やっとお互いに気心が分かるようになり、相手がなにを望んでいるのか、目を見て推し量れるようになりました。私が忙しそうにしていると、そばに座ってじっと待つこともできます。

コートを着ると、お出かけだあ〜と嬉しそうについて来て、彼とお散歩の時につかう軍手をくわえてきて「さあ、行こう」と誘います。

賢くて、人の気持ちを先読みするには参りますが、信頼しきった目を見ると、ほんまに可愛い！

大型犬で見た目にはツキノワグマ風なので、知らない人は怖がるでしょうが、彼の方は、人は誰でも大好き。だから番犬にはなりません、これからの私の人生のよきお伴になってくれることは間違いありません。

犬は一年余りで大人になります。自分の子育てをする前に、一年間ワン育てをしておけば、その失敗を教訓に、子育てで失敗する悩みも半減するだろうなと思ったことでした。

## 村本邦子

ハワイに滞在中である。研究テーマをたくさん抱えてやってきたのだが、ここには今なお、定期的に東北へ通っている人たちがたくさんいることに驚いている。マッサージをしたり、フラを踊ったり、焼きそばを焼いたり、その活動内容も様々。震災を機に東北に思いを寄せ駆けつけた人たちが、その地で人々と出会い、行くたびごとに、その関係を大事にしたいという思いを強めていくということのようだ。

そう言えば、東北で「どんな支援が一番役に立ったと思いますか？」と尋ねると、皆が口を揃えて、「何をもらった、何をしてもらったということは関係ない。継続して来てくれて、親しい関係になれることがありがたい」と言う。

昨年6月に実施した「ココロかさなるプロジェクト」のインタビューで、「禍福は糾える縄の如し」と言った方があった。災害がもたらす禍を帳消しにできなくても、福をもたらす側面もあるという事実が人を支えるのかもしれない。

3月末には、親を亡くしたハワイの子どもたちと、東日本大震災で親を亡くした子どもたちが合流するキャンプを手伝う。大災害を機に、遠く離れた人々が絆を結ぶのは現代ならではだろう。そこからまた新しい可能性が生まれ育っていくことを楽しみにするとしよう。



## 國友万裕

春休みは、ぼくのような大学非常勤講師にとっては時間がたっぷりある時期です。一応、書かなくてはならない論文はあるのですが、一日中論文や勉強ばかりというわけにもいかないの、映画を観に行ったり、スポーツクラブに行ったりしながら、毎日過ごしています。

誰かにかまって欲しくて、色々な人に飯行かないか、風呂行かないかと誘っているのですが、他の職業の人はこの時期は休みではないので、なかなか付き合ってくれません。あー、寂しい。今年の春休みは、かつての教え子と1回食事ただけで、あとはほとんどお一人さまで過ごしています。

でも、まだこの原稿を書いている時点では春休みは半分も終わっていません。これから誰かと会えるのを期待しているところです。ちなみにあと1週間でぼくは52歳になります。2月27日生まれです。

魚座、九紫火星、辰年、木星人プラス、数秘術では4タイプです。どの占いを見ても今年人気運と書かれているので、期待しているんだけど……。きっと27日から運気が変わるのかもしれない。

この原稿がアップされる頃には、色々な友人とあえて、ニコニコ状態になっていることを信じましょう！

## 北村真也

認定フリースクール「アウラ学びの森知誠館」代表。(http://tiseikan.com)

もう年度末。毎年1年が早く感じるようになるのは、歳のせいでしょうか？フリースクールをめぐる新しい法律の話。若者支援に対する社会の意識の変化。さまざまなうねりの中で、私たちの活動も続きます。

## 古川秀明

この原稿を書いている時に、シリアで連続テロがあり、死者が184人になったというニュースが流れた。ほぼ同じくして、日本では東京で地方から出てきた若者の自殺がまた増えているというニュースも流れた。報道にいちいちこころを動かされてはいけないのだけれど、いろいろ考えてしまった。

シンガーソングカウンセラー  
ふるかわひであき

## 西川友理

京都西山短期大学で講師をしつつ、色々と学生支援に関わる事をさせていたでいます。

このところ、頭で考えるよりも、体が感じる感覚…よさ、楽しさ、呼ばれている感じ、あるいは違和感、気持ち悪さ、近づいてはいけない感じ…に、耳を澄ます、ということを意識的にやっています。「～ねばならぬ決断」が多い日々だからこそ、「自然に湧き上がる気持ち」を大事にして、行動を決める、とでも言いましょうか。そうすると、1つ発見がありました。

それは、長いこと「サボる」と「休む」と「遊ぶ」をごっちゃにしていたのかもしれない、ということです。休んでいると、「なにサボってんねん」と自分にツッコミを入れる自分がどこかにいる。「休む」と「遊ぶ」事の違いがわかっていない。

自営業で、休みの日という概念がほぼ無い家で育ちました。居間とお店の作業場は、障子一枚隔てた所。見たいテレビ番組も最小の音にして、父母等が働いて

いるお店の忙しさを気にしながら、「なんかほんとすまません、テレビを見てごめんなさい、でもこの番組だけ見たいねん、見させてな」と思いながら、子どもの頃、アニメを見ていたなあという過去も思い出しました。なんでテレビ一つ見るのにそんなに恐縮せなあかんねん(笑)休むことや遊ぶことはサボること、イコールごめんなさい、といった感じがどこかにあったのかもしれない、と気づきました。

「サボる」と「休む」と「遊ぶ」を意識してから、しっかり休むという意味もなんとなく解るし、休むと決めた日は遊ばないし、遊ぶ日は全力で遊ぶ。

遊ぶのって楽しい。言葉にしたらいふアホみたいですが、最近、本当にそう思います。

## 坂口伊都

この間、久しぶりに前の職場の方2人と食事をしました。お一人は、私と同じ時期に退職された方で、もう一方は、この3月末日で退職をする方です。風の噂で、この3月で辞められる方がしんどそうだと聞いていたのもあって、会おうかという事になりました。

私が、養育里親をするために退職してから、もう3年になります。久しぶりに顔を合わせて話しましたが、何か3年も会っていなかったなんて嘘のように一緒に働いていた当時の感覚に戻っていました。話題も、今の生活とは違うところの話が多くなります。積もる話が多くて、里親の話なんて微塵も出てこなくて、それが何か新鮮でした。

その一方で、養育里親として話をして欲しいと頼まれることも徐々に増えてきました。7月2日、3日に大阪で全国児童養護問題研究会全国大会が開催されるのですが、児童養護施設の職員さんと養育里親である私対話をしながら、社会的養護の場で生活をする子どもの支援につながるヒントを見つけていく分科会をする予定です。子どもを中心に据えて、同じ方向を向ける場になればと思っています。

## 河岸由里子

北海道 かうんせりんぐるうむ かかし  
主宰

『本音』: 今年の冬は、余り酷い雪にあっていない。道路の雪も多くないし、走りやすい冬である。寒さもさほど厳しくない。北海道と言えども、温暖化の傾向は否めない。きっと数十年後には、北海道が軽井沢の様な避暑地になるのかもしれない。「今のうちに別荘を持っては如何? 関東や関西は暑くて住めなくなりますよ。」なんて話もちらほら。一方で、東京にマンションを買いませんかと言う話も舞い込んでくる。千歳に別荘を買う方が東京にマンションを買うよりずっと安いし、使い勝手も良いだろう。千歳は空港の町。我が家から空港までは車で10分。出発前30分に家を出ても間に合う。この便利さと、夏の涼しさと、自然と、美味しい食べ物と。更に冬も雪が減るのであれば、こんなに住みやすい場所は無い、と感じつつも、生まれも育ちも東京の私は、やはりどこかで東京に帰りたいたいと思っている。

## 団士郎

最近の関心事という二人の作家。共に話題になっている事があるから、流行だと言えなくもない。浦沢直樹は漫画家。連載中に愛読していた作品もあるが、「YAWARA」を読みたいとも、「HAPPY」を読みたいとも、「20世紀少年」を読みたいと思ったことはなかった。

それがBSで「漫勉」を見た。トップランナーの漫画家である彼が、若い漫画家に関心を向け、番組の進行役として制作現場を訪れ、自分とは異なった作画や技を語っている。

大昔、手塚治虫さんに一度だけお目にかかった時。それは東京のギャラリーでのマンガート展と題したものに私も作品を出していた時のことなのだが。他の多くの著名漫画家は、みんなその道の成功した大先輩の酒飲みだった。展示中の作品を熱心に見てくれた人はなかった。

手塚さんだけが来場して、作品を一つ一つ見て行かれた。自作の前で少し話もした。その空気に似たものが浦沢直樹にある気がした。更に、NHK switchインタビューで小室哲哉と対談している時の姿勢がとても素敵に見えた。

そんなことを思っていたら作品が目につき始めた。「Master キートン」は連載中

に読んでいたが、改めて作品を読みたいと思った。そして「20世紀少年」から手にし始め、「YAWARA」はamazonの中古で大人買いで、読み始めた。

もう一人は若松英輔。出会いはEテレ「100分de名著 代表的日本人・内村鑑三」の回である。内村鑑三のことは30年以上も前のことだが、岡山県津山市にある奇妙な博物館の向かいの文書館をたまたま訪れたときに意識した。無教会、独力での聖書研究誌発行、各地での聖書勉強会、事業家としての才等の事が書かれた資料に触れた。キリスト教に格別関心があったわけではないから、心惹かれたのは氏の行動原理である。

その後、折に触れ内村鑑三の名は目にした。しかし具体的な何かへの時期が充ちた気はしなかった。断片的関心に過ぎなかった。それがここ数年、このマガジンの継続発行、全国各地での長期に渡る継続WS開催。基本的な学びの世界には属するが、アカデミズムの大樹には寄りかからないこと。そして、漫画「木陰の物語」連載の独自ルート開拓と、小冊子の継続的無償配布など、知らないうちに強く内村鑑三流を意識していたのではないかと思う展開がある。

だからいよいよ私にとって、内村鑑三の時が来たのかなとなんとなく思っていた。そんな時に目にした番組の解説に登場していた若松英輔。この人の言葉がなんと興味深かった。



そこでまず番組のテキストを読み、彼の書いた物をネット検索し、「悲しみの秘儀」ナナロク社刊に会った。これは心ふるえる一冊だった。好みがあるだろうから、誰

にでも薦めるものではないが、私にはかけがえのない一冊に思える。今のところはまだ内村ではなく若松だ。

## 岡崎正明

先日研修会に出た。毎年なるべく出るようにしている研修で、その名も「児童相談所と近接領域における家族療法・家族援助の実際」という。

やたら長くて覚えにくい。略称も無くてよぶとき困る。よくこの名前で25回も続いているなあ、というのが正直な感想。しかし特に主催団体があるわけでも、開催義務があるわけでもなく、毎年各都道府県の有志が持ち回りでやっているというのだから、なかなかすごい。

いろんな講師のいろんな話。共通しているのは実践的で前向きなところだ。本誌にも執筆中の中村正先生の話は、特にしびれた。アカデミックだけど分かりやすく、品が良いのに高飛車でない。

既成の研究や学問から世の中を見ていては、新しい発想は生まれてこない。「どうして問題ばかりを研究するのか?」というまっとうな問い。nulearn(脱学習)という考え方に思わず「我が意を得たりっ」と心の中でつぶやいた。

昔から教わったままにするのが嫌いなへそ曲がりだ。仕事の引継ぎでも、言われた通りやればいいのに、自分なりにアレンジしたり「もっといい方法はないか?」「それする意味あるんか?」と、早い段階で独自の手法を考えたりしてしまう。だってその方が「自分のもの」になるから。もちろん考えが足らずに失敗も多くなるが、失敗を重ねたほうが「自分のもの」になりやすいのも経験済み。

普段から「バカでもいいから地頭(じあたま)で考えろ」と思っていた私に、脱学習のお話は本当に嬉しかった。勝手に親近感を覚えたりして、ついトイレで先生に話しかけたりする無礼者なのでした。

[buimen0412@yahoo.co.jp](mailto:buimen0412@yahoo.co.jp)

## 千葉晃央

◆京都国際社会福祉センターで新しい研修を担当することになりました。「事例から学ぶソーシャルワーク ～明日から使う具体的な働きかけ 導入編・基礎

編～」のなかの「対人援助の仕事とは？対人援助職は利用者をどうとらえるのか？」「援助職の陥る問題 救世主願望と罪悪感、保護と配慮等」という全体20回のうちの2回です。どちらも好きなテーマだし、他にもたくさん大切なテーマをラインナップしていますので、興味がありましたらよろしくお願ひいたします。

◆<http://www.kiswec.com/enjo.html>◆

◆私の父はよくテレビで落語を観ていた。桂枝雀が好きだったような記憶がある。「笑点」をはじめ演芸番組をよく観ていた。そのため、そこそこ落語家さんの名前と顔はわかる。きっかけがあり、落語を通勤の車のなかで聴くようになった。そのとききたい！と思った落語家さんは古今亭志ん朝さん。そんなことあらためて意識したことがなかったけど、自分自身にきいたらこの答えだった。ききはじめると本当におもしろい。学ぶことも多い。志ん朝さん、今何やっているんだろうと思ったら、すでに故人だった…。ショックである。

## 大川聡子

拙著「10代の母というライフスタイル—出産を選択した社会的特徴に着目して」が、2/28に晃洋書房から出版されました。内容は、4年前に執筆した博士論文を加筆修正したものです。2016年の年末年始は、博士論文を通してひたすら4年前の自分と対話していました。前段の内容からここまで言えないでしょ、と思うようなところもあれば、こんな表現は今できないな、と感心するようなところもありました。自分自身は退化しているのか進化しているのかわかりませんが、学位授与時に2歳、5歳だった子どもたちはそれぞれ6歳、9歳になりました。成長していく彼らがうらやましく思える今日この頃です。

博論執筆中、執筆後、そして出版に際して、対人援助学マガジンに関係する沢山の先生方にお世話になりました。本当にありがとうございました。

## 大谷多加志

息子が4月で小学校に入学します。今は体験入学があり、体操服や文具の購入

がありと、入学に向けての準備を日々こなしているところです。大人からすると、毎日のびのび楽しく過ごしていた保育園生活が終わってしまうのを名残惜しく思っていますが、息子も含め多くの子どもは学校に行くのが楽しみで仕方がないように見えます。子どもって、成長する、大人になっていくことを嬉しく思うんですね。そういえば、自分もそうだったような気がするなあ…。そのうち「大人なんかかなりたくない」「仕事なんかしたくない」と思われないように、楽しく仕事と生活を送る大人の姿を見せられる親でありたいと思ったりしています。

## 竹中尚文

浄土真宗本願寺派専光寺住職。

先日、ローマ法王の「人と人の間に壁を作るのは、キリスト教徒ではない」という発言が報道された。大いに賛同するところである。それなりの教義を有する宗教は、人と人のつながりを必須としている。このつながりの基礎になるのは平等である。多くの宗教は、その勢力維持のために権威主義と手を結んだ。近世のヨーロッパ社会では、基本的価値観が権威から平等に移行した。キリスト教はその時、本来の平等へ戻れなかった。そこに宗教的空白ができた。それを埋めるようにナショナリズムが発生した。◆日本でも仏教は、平等を大切にしていた。この時代、仏教は政治権力とは異次元の存在であった。江戸初期に、意図的に無宗教が作り出された。一方で、仏教は権威主義にドンドンと傾倒していった。宗教が形骸化していけば、人の気持ちは離れる。精神的空白にナショナリズムはいとも簡単に発生する。◆今、ローマ法王が平等を大切にしようとしている姿勢には、とても共感できる。現代の宗教は本来の姿勢に戻り、平等と共感に基礎を置いた人のつながりを作らねばならない。この数百年間、ナショナリズムの元にどれほどの命が失われた事だろうか。今こそ、坊さんの出番である。テレビで袈裟を売って、糊口をしのぐ坊さんが跋扈するばかりだが。

## 川崎二三彦

新連載

年が明けてからというもの、twitter や Facebook への投稿もすっかりご無沙汰していて、一部の人から「生きてますか？」という心配の声がかかるかと思ったら、そんなことはこれぼっちも起こらず、当方、相変わらずの生活ぶり。そこで覚えに twitter 不定期連載「呆け日誌」風に近況を報告しておこう。

\*

○某月某日「呆け日誌／優先座席」

最近電車に乗っても、割と平気で優先座席を利用する。この日も堂々と座っていたら、年配の男性が杖をついて乗り込んでくるではないか。反射的に席を譲ったら、怪訝な顔してこちらを見る。そこで再び眺めたら、杖と思ったのはキャリーバッグの伸縮ハンドル。おまけに年の頃私とほとんど変わらない。合わす顔がないとはこのことだ。

○某月某日「呆け日誌／転倒」

夜間の会議。主催者との打ち合わせが長引き、駐車場を抜けて急ぎ会場に向かったのはよいとして、「ここ、低い垣根があるので注意してくださいね」と言われて軽々とまたごとしたら、いきなり転倒。垣根の一步手前の駐車止めブロックに躓いてしまったのだ。親指を捻挫して今も不自由を託っております。



○某月某日「呆け日誌／新カラマーゾフ……」

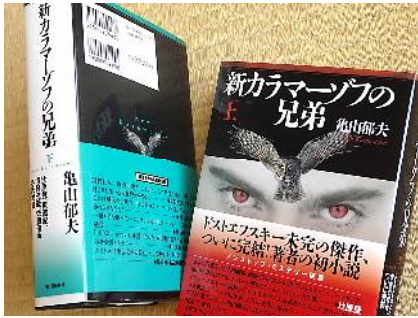
こんな本につかまって往生した。驚くべき小説だが、作者の新訳になる「カラマーゾフの兄弟」を読んだのが数年前だったので、呆けた頭にはドストエフスキーの原作がほとんど残っておらず、十分消化できないまま上下巻合計1400ページあまりの本作を読了。それにしても東京外国語大学の学長だった人がこんな分厚い本を書けるのか？

\*

というようなことを書き連ねていても、き



りが無い。近況はそれぐらいにして、今回は、新連載のお知らせをしなくてはなるまい。



前号の著者短信用欄で、

「連載『映画の中の子どもたち』は、今号で22回を数えるのだけれど、諸般の事情でそろそろ終結もしくは断続的投稿として、新しい連載を始めることに、

しようかどうか、現在思案投げ首沈思黙考鋭意熟考迷妄瞑想真っ最中でございます。とりあえずのお知らせでした」

と記したのだけれど、いよいよ決断、ついに今号から新しい連載を開始することに。ただし、最初は準備号とでもいうしかない内容で、第1回とも付けられず「序」としている。

ついでにここでタイトル解説。児童相談所の、おもに児童福祉司を中心としたスーパーバイズをテーマに考えているので、「S・V」というのは特に説明の必要もないだろうが、副題の「羅針盤のない航海」が問題だ。むろんそれは、私のS・V自体がそうであったということだが、それだけでなく、この連載も、実はどこをさまよい、どこに寄港し、どこに漂着するのかさっぱりわからぬ羅針盤のない連載になるという危うさによる。途中で、(意外と早く)難破するかも知れず、皆さまに白眼視されることを覚悟の出航であることを、最初に告白しておきます。

また、これまで続けてきた「映画の中の子どもたち」は、今後は気まぐれ連載ということで、不定期、断続的に掲載し、そのうち誰知らぬ間に沙汰やみになるかも知れませんが、その点悪しからずご了承ください。

(2016/02/28 記)

## 荒木晃子

ころころ穏やかにお正月を迎え、あわただしく日常のスタートを切った。新年度は、

新たに次のステージを目指すことになるので、日々、健康維持には留意せねばと肝に銘じている。

今年は、新領域へ足を踏み入れ、新たに出会った仲間と共に、新しい試みに挑戦することになるだろう。そこでは、これまで私が目指してきた先の、遙か向こうにそびえ立つ、想像もつかないほどの大きな壁が、いつか身近に迫ってくることもあるだろう。現に、過去に経験したことのないほど、自分の不勉強さと力不足を感じはじめ萎縮気味の自分が、いま、ここにある。こころが小さく窄み始める時、いまは亡き両親の笑顔を脳裏に浮かべ、こころでつぶやく。

「お父さん、お母さん、どうか私に勇気を与えてください。ふたりは、私の内に、渴くことのない希望を授け、尽きることなく歩むからだを与我してくれた。でも、もうひとつ、願わくば、勇気のシャワーを、どうか天国から降り注いでほしい。あなたの娘は、自分という人間を仲間とともに十分に使い果たし、悔いのない人生の幕引きを願っているのです。」

さあ、今年も一年、頑張るぞ！どうぞよろしく。

## サトウタツヤ

前回、思わぬミスで原稿が不着となり、一回休載となりすみませんでした。しかし、原稿は手元に残っているので一回得した気分です。こんな怠けた感想ではダメですね。。。

## 見野 大介 みのだいすけ

正月気分も全く無いままに、もう二月が終わろうとしております。餅つきは結局4件回りました。いずれも応援を依頼されたの餅つきでしたが、回を重ねるごとに餅つきの奥深さを知り、ますます楽しくなってきました。そのうち自宅でも餅つきイベントやってそうで怖いです(笑)

さて、本職のお話ですが三月に京都高島屋で個展をします。普段使いの器を作ることが多いのですが、高島屋という場所でもあるので今回は花器や茶器、酒器などを中心に展示しようと考えております。会期中はずっと在廊しておりますので、ぜひ茶化しに来てくださいませ。

## 【 陶 見野大介展 】

会期: 2016.3.23-3.29 10:00-20:00(最終日 16:00 まで)

会場: 高島屋京都店 6階美術工芸サロン

## 鶴谷主一

毎年年度末はやたらに忙しい。仕事の処理能力も落ちていくらしく机の上に次々と仕事が集まっていきます。幼稚園の先生たちも保育の準備や卒園進級に向けて準備をしたり、個人的に園児にプレゼントするものを作ったり、毎日遅くまで仕事をしている。

今回取り上げた生活発表会に取り組む先生たちも、一生懸命準備や練習に注力しているに違いない。その努力が先生も子どもも保護者も、みんなが納得いく形で実を結ぶことが大事なのだと思います。そのためにはリーダーがしっかりと方針を立てることが肝要でしょう。

原町幼稚園 <http://www.haramachi-ki.jp>

メール osakana@haramachi-ki.jp

ツイッター haramachikinder

## 新連載決意表明編

## 奥野景子 理学療法士

## おくのほそみち

～ ご挨拶 ～

「奥野、お前もマガジン書かなあかんぞ!」……う、実は最近、マガジンの連載をしたいなって思ってたことなんです…!「そうか!じゃあ書けかけ〜!」…わっ、かりました(ついに書くのかあ…!)

2015年11月7日(土)夜、岩手県宮古市のカフェバーでの団先生と私のやり取りである。なぜ岩手! ?と思う方がいるかもしれないが、その日は立命館大学大学院応用人間科学研究科が東北四県で行なっている東日本・家族応援プロジェクトに参加する為に宮古に行っていた。団先生と院生二名、修了生一名と私でカフェバーに行くことになり、どういう流れでこの話になったのかは思い出せないが、有難いことに気が付いたらマガジンを書くことにな

っていた。

どんな連載になっていくのかは、自分でもよくわかりませんが、ぼちぼち続けて行ければな～と思っています。それではみなさん、これからよろしく願いいたします。

## \* 助走 \*

### 0. 「はじめまして」を始めます

はじめまして、次回から連載を始めさせていただきますことになった奥野景子です。まずは「おくのほそみち」なんていうよくわからないふざけたタイトルにも関わらず、読んでいただいている方に感謝を申し上げます(笑)。今回は助走ということで、自己紹介と今の段階でこれから書いていきたいなあと思っていることについて簡単に述べたいと思います。

#### 1. ここでの名乗り

連載を始めるにあたって最初に決めたのは「理学療法士 奥野景子」と名乗ることでした。なぜか？と聞かれると、まだ上手く答えられない自分がいますが、強いて言うなら「奥野景子」として書くには、少しまだ恥ずかしい部分があるからとでも言えば良いのでしょうか…。

理学療法士という自身の職業を枕詞にすることで、少しだけ胸を張れるような気がしています。理学療法士という自身の職業を通した方が、自分自身のことを少しだけ上手く書けるような気もしています。

#### 2. 「えっ？おくのほそみち…？」

さて、次はよくわからないタイトル「おくのほそみち」についてです。始めは全く違ったタイトルにしようと思っていました。でも、結局このタイトルで書いてみることに…。正直、自分でもびっくりです。

2015年3月に立命館大学大学院応用人間科学研究科を修了してから、私は自分自身の変化に気が付くことがちょろちょろあります。マガジンを書いてみようと思ったこと、それを自分の口から団先生に伝えられたこと(本当は団先生発信の話だったけど)、今までは読んだことのない分野の本を買いあさっていること(読めていない本がたくさんあるのに買い足してしまう

ことも)、職場の人とちょくちょく飲みに行くようになり(お陰さまで焼酎も覚え始めました)、一緒に旅行にも行ったこと、少し引っ掛かりがある物件にも関わらず引越しを決めたこと(それでも楽しみ♪)、そして、この連載のタイトルを「おくのほそみち」に決めていたこと…。これ以外にも今までの自分であればやらなかつたらうなと思うことがちょろちょろあります。そんな自分に気が付くたびになんだか嬉しかったり、恥ずかしかったり、不思議に思ったりしている自分もいて、それもまた新鮮です。

はじめに決めていたタイトルには「リハビリテーション」という言葉が入っていました。自身の言葉を通して自分なりのリハビリテーションについて考えたいと思っていたからです。ただ、何について書いていこうかと考えているうちに、自分なりのリハビリテーションを通して自分自身について考えたいと思うようになっていました。その結果、ある人から提案されたこのタイトルになっていました。タイトルについては、まだ腑に落ちていない部分もありますが、このタイトルで結局書き始めていること、こんなことも楽しめるようになった自分の変化も感じています。

#### 3. これからのこと

それでは、この連載を通して何を書いていくのか？について、ですが…。…え～っと、何について書いていきましょうか(笑)。決してノープランという訳ではありません！ただ、まだちょっと上手く言えないだけです(たぶん…)。でも、仕事を通して感じたこと、考えたこと、今までの自身の経験が仕事につながっていること、仕事に全く関係のない自分のこと…などなど、いろいろと書きたいことはあるので、それらについてぼちぼち書いていきたいなと思っています。それが何になっていくのかは、よくわかりません。それでも、書きたいことがあって、書ける場所があることに感謝しつつ、細く長くやっていきたいなと思っています。

ここまで読んでいただいた方の中には、うすうす感じていらっしゃる方もいるかもしれませんが、私にはまだまだ上手く言えないことがたくさんあります。また、上手く言おうと思っていないこと、上手く言いたく

ないこともたくさんあります。綺麗な言葉や耳あたりの良い言葉を並べてそれらしく書いたり、わかった風を装ったりしまくらいなら、胸を張って「私にはよくわかりません！！」と言いたいのです。「よくわからないけど、今はこう思っているんですが…」といった感じで書いていきたいと思っています。時にはのんびり、時には真面目に、時にはなんとなく…。それでは、これからよろしく願いいたします。

